

## グランドカンファレンス 抄録

**【開催日時 (確定)】** 2023 年 10 月 5 日 17:30~19:00

**【演題タイトル】** 病理と臨床の接点を求めて

**【一副題】** 肝・胆道系腫瘍の研究経験から

**【演者名・所属】** 尾島英知 (慶應義塾大学医学部病理学教室)

**【抄録本文】**

病理学は臨床医学の基盤であり、研究面では臨床医学と基礎医学の懸け橋になる存在である。病理医は、病理学という専門性と病理研究者としての側面を活かして、日常の病理診断業務で観察している組織形態学的所見と臨床情報との相関性を常に意識することで様々な臨床病理学的・分子病理学的研究のアイデアを得て実施することができる。従って、カンファレンスを通じた臨床医との活発なディスカッションは、病理と臨床の基本的な接点であり、病理診断の精度向上に寄与するだけでなく、実臨床への応用を見据えた研究促進のためにも重要と考える。

本講演では、まずはじめに難解な話を抜きにした病理を身近な存在に感じていただくための実臨床における病理の基本を概説する。そのうえで、多数の肝胆道系腫瘍切除標本の詳細な臨床病理学的検討による臨床的特性を反映した特徴的組織所見検索の試みと、様々な切除標本由来バイオリソース (凍結検体・細胞株・異種移植モデル) 樹立の実際を提示する。さらに、これらを基盤にした分子病理学的研究、臨床医とともに病理と臨床の接点へアプローチを試みた共同研究なども紹介する予定である。